

## 課題6 . 国際母子保健医療活動

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	<p>1. 国際協力事業団中部国際センター（JICA）事業 「平成14年度国別特設 地域母子保健コース研修」実施 平成14年10月22日（火）～11月24日（日） 研修生8名</p> <p>2. JICA カウンターパート研修員の研修受け入れ</p> <p>（1） ホンジュラス、マダガスカル研修生 平成14年12月8日（月） 研修生4名</p> <p>（2） ボリビアサンタクルス県研修生 平成15年2月12日（木） 研修生2名</p>

### 教育研修（1） 「平成14年度国別特設 地域母子保健コース研修」

実施期間	平成14年10月22日（火）から11月24日（日）
対象者（研修生）	8名（ナイジェリア3名、タンザニア2名、ジンバブエ3名）
研修内容	<p>国際協力事業団中部国際センターでは、平成13年度地域母子保健教育コースを新規に設立、当センターはプログラム立案・研修評価等技術協力、会場設営、連絡調整等をしている。</p> <p>基本的なコンセプト：日本の最先端の技術、現在の保健行政システムの紹介のみならず、日本が短期間に母子保健指標を改善してきた歴史、その要因、プロセスを紹介、指導することに重点を置く。</p> <p>プロジェクトサイクルマネージメントの基礎的概要、ジョブレポート発表会 基礎講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の衛生行政とその歴史、日本の医療制度・世界の公衆衛生の流れ</li> </ul> <p>母子保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健所と市町村保健センターの役割・母子保健と統計学</li> <li>・ 周産期保健（周産期ネットワークシステム、日本の助産院の役割、地域産婦人科医の役割、母子保健と母子健康手帳、日本におけるエイズの状況、母子保健に関わる国際協力の実際）</li> <li>・ 小児保健（新生児の医療、乳児健診の方法と健診マニュアル、小児保健における保健師の役割、口腔衛生と小児保健、日本における小児歯科、予防接種の歴史と背景）</li> </ul> <p>環境衛生・食品衛生、上下水道の果たす役割、感染症サーベイランス</p> <p>学校保健・日本の学校保健制度とその歴史、学校検診システム、給食の役割とその歴史、学校心臓検診、学校給食の現場</p> <p>障害者保健医療・日本の障害福祉制度、障害者医療、聴覚障害の早期発見と訓練</p> <p>スケジュール詳細は別紙</p>

Tentative Schedule of Maternal and Child Health Program in Nagoya Fiscal 2002		講演者または責任者		会場*	
AM(8:30-12:30)		PM(14:00-17:00)			
Oct. 22	火 健康福祉部表敬訪問 (9:00) Project Cycle Management	鈴木洋一 (JICA)	鈴木洋一 (JICA)	講演者または責任者	会場*
Oct. 23	水 カントリールレポート (11:00)	長嶋、山崎 (小児C)、JICA等	カントリールレポート	長嶋、山崎 (小児C)、JICA等	○
Oct. 24	木 母子保健と統計学	宮尾 克 (名大)	日本の医療保険制度	田邊 雅 (金沢大学)	○
Oct. 25	金 日本の衛生行政とその歴史	田邊 雅 (金沢大学)	小児保健における保健婦の役割	水野加壽子 (愛知県医大) 中澤和成 (小児C)	○
Oct. 26	土				
Oct. 27	日				
Oct. 28	月 産産期ネットワークショップ	石川 薫 (第一赤山産科)	新生児の医療	結木千鶴子 (第一赤山小児科)	
Oct. 28	火 保健所や市町村保健センターの役割	辻谷いづみ (知多保健所)	乳児健診の方法と施設マニュアル	辻谷いづみ (知多保健所)	
Oct. 30	水 保健所や市町村センターの見学 (反動保健所)	坂本真理子 (愛知医大)	保健所や市町村センターの見学 (反動保健所)	坂本真理子 (愛知医大)	
Oct. 31	木 世界の公衆衛生の過渡	香山温子 (名大)	母子保健に関わる国際協力の実際	松林信幸 (主婦病院小児科)	○
Nov. 1	金 日本の学歴保健制度とその歴史、(養護 数値を含む)	名古屋市教育委員会	学級区について	高田秀夫 (名古屋市学校医会長)	○
Nov. 2	土				
Nov. 3	日				
Nov. 4	月				
Nov. 5	火 感染症サーベランス	宮崎 薫 (愛知県衛生研所長)	愛知県衛生研所見学	宮崎 薫 (愛知県衛生研)	
Nov. 6	水 日本の助産院の役割	助産婦会	助産院の見学	助産婦会	○
Nov. 7	木 地産の産婦人科医の役割	萬羽 進 (まなばけリニック) 今井信昭 (あたびけリニック)	地産の産婦人科医の役割	萬羽 進 (まなばけリニック) 今井信昭 (あたびけリニック)	
Nov. 8	金 東京へ移動	JICA	産育医療センター見学	榊川 仁 (産育医療センター)	
Nov. 9	土 東京				
Nov. 10	日 東京				
Nov. 11	月 食品衛生(愛知県北部市見学)	佐藤信雄 (愛知県健康福祉部)	上水道、下水道の果たす役割 (上下水道見学)	愛知県健康福祉部 佐藤信雄 現場へ出張	
Nov. 12	火 給食の役割とその歴史	宮田 京 (愛知県教育委員会)	学校給食の現場(訪食と見学)	宮田 京 (愛知県教育委員会)	
Nov. 13	水 日本におけるエイズの状態	戸谷真道 (国立名古屋大)	日本におけるエイズの状態	向海 真 (国立名古屋病院臨床試研 突部長)	
Nov. 14	木 予防接種の歴史と背景	神谷 真、中野重司 (三重大)	予防接種の歴史と背景	神谷 真、中野重司 (三重大)	
Nov. 15	金 母子保健と母子手帳	中村安秀 (阪大)	各国の保健センターの役割(討論)	中村、長嶋、山崎、加藤、中澤、 坂本他	○
Nov. 16	土 アグシヨングラフン準備	松林信幸、長嶋正實	アグシヨングラフン準備	松林信幸、長嶋正實	
Nov. 17	日				
Nov. 18	月 口腹衛生と小児保健	河合昌明 (愛知県産科医団会)	小児歯科見学	中岡晴男 (愛知学院歯学部)	
Nov. 19	火 日本の小児保健	長嶋正實 (小児C) 山崎 薫 (小児C)	養護学校について (歴史と実状) 交流室をまわ	大岡養護学校校長他	○
Nov. 20	水 日本の障害福祉制度	三田優子 (コロニー研究所)	障害者医療	長嶋正実 (コロニー中実大)	○
Nov. 21	木 聴力障害の早期発見と訓練	宮尾はるみ (小児C)	学校心臓検診	長嶋正實 (小児C)	○
Nov. 22	金 ファイナルレポート制作		ファイナルレポート制作		○
Nov. 23	土				
Nov. 24	日 ファイナルレポート発表会	出席可能な人すべて	ファイナルレポート発表会、 評議室、閉講式	出席可能な人すべて	○
				会場*は当センターの会場を利用	

教育研修（２） JICA カウンターパート研修員の研修

（１） ホンジュラス、マダガスカル研修生

日時：平成 14 年 12 月 9 日（月）

場所：あいち小児保健医療総合センター

目的：日本の母子保健における小児医療の現状について（特にこころの問題等および施設見学）

a．研修内容

時間	研修内容	担当者
10:00～11:00	センターの概要と日本の小児医療の現状	長嶋正實センター長
11:00～12:00	日本の小児医療 特にこころの医療、カウンセリング技術等について	杉山登志郎心療科部長 （保健センター長）
13:30～14:30	日本の小児看護	西山満智子看護部長 古庄あゆみ看護師
14:30～16:00	センター保健部門の活動について およびセンター施設見学	山崎嘉久保健室長

b．研修員

**Dr. Zolia adilia Ribera Palma.**

第 7 保健地域サンフランシスコ病院外来医師（ホンジュラス国）

**Ns. Teresa Guzman Castillo**

第 7 保健地域グアヤペ・ヘルスセンター & 母子クリニック看護師長（同上）

**Ns. Beanjara Agnes**

マジェンガ大学総合病院センター小児科看護師長（マダガスカル国）

**Ns. Ralinoro Justine**

マジェンガ大学総合病院センター産科看護師長（同上）

c．同行者

珍田英輝（国立国際医療センター国際医療協力局研修係長）

スペイン語通訳 1 名、フランス語通訳 1 名

（２） ボリビア国サンタクルス県研修生

日時：平成 15 年 2 月 12 日（木）

場所：あいち小児保健医療総合センター

目的：母子保健について及び施設見学

（ボリビア国サンタクルス県地域保健ネットワーク強化プロジェクト  
カウンターパート研修員研修）

a．研修内容

時間	研修内容	担当者
9:30～10:30	センターの概要と日本の小児医療の現状	長嶋正實センター長
10:30～12:00	日本の保健師の歴史と愛知県の母子保健体系及びセンター施設見学	中澤和美保健師

b. 研修員

Dr. Alba Caballero Carmen Rosario

サンタクルス市保健局事務局長

Ns.felisa Teresa Alarcon Ramos

サンタクルス市第2地区保健スーパーバイザー

c. 同行者

中馬潤子（国立国際医療センター国立医療協力局）

スペイン語通訳1名

実施活動項目ごとの評価：国際母子保健医療活動

評価の方法・手段	1. 海外専門家との人的交流・派遣に関する定量的評価 2. 情報利用者数の測定 3. 相談件数とその内容の調査 4. 地域特設「地域母子保健」コースのクエスチョネアでの評価
評価の概要	1. 有用性 （1）国際母子保健医療活動では、「平成14年度国別特設 地域母子保健コース研修」を平成13年度から実施し2年目を迎えた。1年目の経験を生かし、実施時期、研修内容の検討などを行い開催した。今年度はアフリカの3カ国から8名が参加した。研修生の評価では、研修プログラムに対する評価（研修範囲・専門程度（内容）・研修目的との関連性・時間配分等）は‘ Good ’、‘ about right ’、‘ fair ’であった。 その他、研修期間、研修プログラム密度、研修運営管理等、また、最も有益であった研修項目、今後追加すべき項目、今後削除すべき項目などの意見を聞いているので、来年度研修計画に反映させることができる。 2. 問題点 （1）「平成14年度地域母子保健コース研修」は、国際協力事業団中部国際センター（JICA）との協力事業である。 （2）当センターにおける外国人利用者数の把握をしていない。 3. 事業継続に関する意見 国際協力事業団中部国際センター（JICA）の実施事業に協力する。 また、‘ 協力 ’ という消極的な取り組みだけでなく、積極的な国際母子保健医療活動としての事業を展開する必要がある。